

企画展「^{ふる}故きを^{たず}温ね「食と健康」を科学する」展示紹介

中日新聞 令和5年(2023)10月6日(金)掲載

食と健康 先人の知恵学ぶ

瑞穂で企画展「養生訓」や「病家須知」紹介

現代にも通じる食と健康に関する先人たちの知恵を紹介した展示。瑞穂区汐路町3の越原記念館で



「^{ふる}故きを^{たず}温ね「食と健康」を科学する」と題した

企画展が、名古屋女子大(瑞穂区汐路町)内にある越原記念館で開かれている。江戸時代の儒学者、貝原益軒が著した「養生訓」などに記された、現代にも通じる先人たちの知恵を紹介した。7日午後1時半から、同館学芸員の鈴木孝子さんによる展示解説がある。

同大を運営する学校法人越原学園が所蔵する江戸―昭和期の資料から、食と健康について説いた資料を展示。養生訓の教訓を読み解いた「食に学ぶ養生のススメ」や、同時代の看護書「病家須知」を基に家庭医学や予防医療を考えるコーナーなどを設けた。

養生訓には、酒を人に勧める場合には、人により酒の強さに差があるので、最初は少量ずつ勧め、飲めない人には勧めない方がよいとの記述がある。貝原益軒が指摘したこの知見を基に、アルコール分解酵素遺伝子の不活性型の割合がアジアでは多いことを示した世界地図を掲げるなど、先人の知恵を裏付ける科学的な資料も展示した。

鈴木さんは「今の時代に求められる先人たちの食や健康に関わる知恵や心について理解を深めていただければ」と話す。入館無料。来年2月15日までで、今月7日を除く土・日曜、祝日、学園休業日などは休館。(小島哲男)